

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	運動機能解剖学			担当講師	米田 彰
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次 学 期 前期
概 要	<p>疾病・障害を診るためには、人体の正常な形態と構造を理解する必要がある。運動機能解剖学では、解剖学の中でも特に運動に関係する骨・靭帯・筋の名称と構造について学ぶ。</p> <p>さらに、構造的な骨・筋の理解と合わせて、人間が行う基本的な運動の中でどのように機能しているのかも併せて学ぶ。</p>				
到達目標	<p>骨・靭帯・筋の構造を運動と合わせて理解すると共に、体幹・上肢・下肢の骨・靭帯・筋がどのように機能しているかを学び、運動機能に関する知識を深める。</p> <p>1 体幹・上肢・下肢の骨・靭帯・筋・神経の名称が言える。</p> <p>2 体幹・上肢・下肢の骨・靭帯・筋・神経の構造と機能が説明できる。</p>				

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション, 総論
2	キーワード
3	上肢帯・上肢の骨（肩甲骨, 鎖骨, 上腕骨, 橈骨, 尺骨, 手根骨, 指骨）
4	下肢帯・下肢の骨（寛骨, 大腿骨, 膝蓋骨, 脛骨, 腓骨, 足根骨, 趾骨）
5	上肢帯の骨（肩甲骨, 鎖骨）
6	上肢の骨（上腕骨, 橈骨, 尺骨）
7	上肢の骨（手根骨, 中手骨, 指骨）
8	上肢の筋
9	上肢帯の筋
10	上腕の筋
11	前腕の筋
12	上肢筋まとめ
13	下肢帯の骨（寛骨）
14	下肢の骨（大腿骨, 膝蓋骨, 脛骨, 腓骨）
15	下肢の骨（足根骨, 中足骨, 趾骨）
16	下肢の筋
17	下肢帯の筋
18	大腿の筋
19	下腿の筋
20	足部の筋
21	下肢筋まとめ
22	骨・筋総まとめ
23	期末試験（筆記）

評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版
参考書	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社
備 考	※運動学, 解剖学と関わります。 ※理学療法評価学基礎 I・II, 体表解剖学 I・II にもつながっていきます。 ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	基礎解剖生理学			担当講師	佐藤 正一
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次 学 期 前期
概 要	人体の構造と機能および生命維持のメカニズムを学び、人体理解の基礎を身につけることで、解剖学・生理学でのより具体的な学習へ結びつける。				
到達目標	<p>身体機能・構造と生命維持のメカニズムが統合して解釈できる。</p> <p>生命体の最小単位である細胞や人間の生命維持活動に必要な機能について理解する。さらに、身体を構成する組織・器官を筋・骨格系、神経系、内臓諸器官系に大別し、これらの構造と機能について学ぶ。</p>				
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	ガイダンス、人体各部の構造と機能について				
2	骨格と関節				
3	細胞の構造と機能①				
4	細胞の構造と機能②（骨の構造）				
5	細胞の構造と機能③（筋の構造）				
6	筋の機能				
7	内臓系①（呼吸器系）				
8	内臓系②（心臓・循環器系）				
9	血液①				
10	血液②				
11	消化と吸収				
12	消化と吸収				
13	排泄のメカニズムと体液の調整				
14	排泄のメカニズムと体液の調整				
15	神経系①（神経系の構造）				
16	神経系②（中枢神経系）				
17	神経系②（中枢神経系）				
18	神経系③（末梢神経系）				
19	神経系③（末梢神経系）				
20	免疫系（体温調整）				
21	内分泌系の構造と機能①				
22	内分泌系の構造と機能②				
23	筆記試験				
評価方法	筆記試験にて評価する				
教科書	系統看護学講座「人体の構造と機能① 解剖生理学」医学書院				

参考書	解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版
備考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	解剖学Ⅰ			担当講師	日高 輝久		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	専門学校講師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>疾病・障害を診るためには、人体の正常な形態と構造を理解する必要がある。解剖学Ⅱでは、特に筋骨格系、呼吸器系、中枢神経系、末梢神経系、循環器系、各臓器・器官の形態・構造を学ぶとともに、人間の動きの中でどのような役割をしているかを併せて学ぶ。</p>						
到達目標	<p>脈管・神経系の形態および構造を各論的に学ぶと共に各臓器・器官の機能的役割を把握し、人体機能に関する知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の各部位の名称がいえる。 2. 人体の脈管・神経系の正常な形態と構造を説明できる。 3. 各臓器・器官の形態と構造を説明できる。 4. 各臓器・器官の機能的役割を説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション, 解剖学基礎知識						
2	解剖学総論（解剖学とは, 人体の構成, 人体の発生）						
3	消化器系①						
4	消化器系②						
5	呼吸器系①						
6	呼吸器系②						
7	血液①						
8	血液②						
9	循環器系①						
10	循環器系②						
11	泌尿器・生殖器系①						
12	泌尿器・生殖器系②						
13	内分泌系①						
14	内分泌系②						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院 病気が見える Vol.7 脳・神経						
参考書	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 人体解剖学（改訂第42版） 南江堂 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 医学書院						
備 考	解剖学は基礎の一つとなる重要な科目です						

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>		
科目名	解剖学Ⅱ			担当講師	佐藤 正一		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	<p>疾病・障害を診るためには、人体の正常な形態と構造を理解する必要がある。解剖学Ⅱでは、特に筋骨格系、呼吸器系、中枢神経系、末梢神経系、循環器系、各臓器・器官の形態・構造を学ぶとともに、人間の動きの中でどのような役割をしているかを併せて学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨・関節の形態と構造および、人間の動きの中で役割が説明できる。 2. 骨格筋の形態と構造および、人間の動きの中で役割が説明できる。 3. 神経（末梢・中枢神経系）の形態と構造および、人間の動きの中で役割が説明できる。 4. 呼吸器の形態と構造および、人間の動きの中で役割が説明できる。 5. 循環器の形態と構造および、人間の動きの中で役割が説明できる。 6. その他の内臓器（消化器・泌尿器・内分泌器・生殖器など）の形態と構造および、人間の動きの中で役割が説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、発生、頭部の骨						
2	脊柱の構造						
3	体幹の骨格						
4	胸部の筋、呼吸運動						
5	呼吸器：肺						
6	循環器：心臓						
7	血管：動・静脈						
8	中枢神経						
9	大脳辺縁系：基底核						
10	末梢神経、感覚器						
11	感覚器、脳血管						
12	神経伝導路①						
13	神経伝導路②						
14	内臓系						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 医学書院 プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院 病気が見える Vol.7 脳・神経						
参考書	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 人体解剖学（改訂第42版） 南江堂						
備 考	解剖学は基礎の一つとなる重要な科目です						

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	生理学			担当講師	杉田 憲司・栗原 琴二		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	大学教員としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	<p>生理学では、健康や病気を理解する為に必要な基礎学問である。人間が健康に日常生活を営むために、生体の各組織や器官が機能を発揮し、神経やホルモンなどの作用により身体の調和が保持されている。その調節機構として、大きく内分泌系と神経系の2つに分けることが出来る。</p> <p>内分泌系である呼吸・循環・消化吸収・排泄・代謝などの生命維持に必要な各機能の調節を統合的学習する。また、解剖学や動物生理学などの基礎知識とも統合した見解を持つことで、生体の異常（病気）について理解することが望ましい。</p> <p>神経系を取り上げ神経・筋・感覚器の基本的性質について学習する。また、解剖学や植物生理学などの基礎知識と統合した見解を持つことで、生体の異常（病気）について理解することが望ましい。</p>						
到達目標	<p>正常な人体の諸機能を理解し、いかに統合的に働いているかを理解する。また、以下の内容を人体構造と体内の物質的機能と関連付けて考え、説明することが出来る。</p> <p>1. 循環 2. 消化と吸収 3. 排泄 4. 呼吸 5. 代謝 6. 内分泌 7. 発生と組織</p> <p>8. 神経の構造と特性について理解できる</p> <p>9. 中枢・末梢・自立神経の機能について理解し説明することが出来る</p> <p>10. 筋の機能 11. 感覚器</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	概論、細胞小器官の機能						
2	神経系の基礎						
3	消化と吸収①						
4	消化と吸収②						
5	消化と吸収③						
6	内分泌系①						
7	内分泌系②						
8	泌尿器系①						
9	泌尿器系②						
10	代謝系						
11	血液①						
12	血液②						
13	免疫系						
14	呼吸器系（運動）						
15	自律神経系①						
16	自律神経系②						
17	中枢神経系①						
18	中枢神経系②						
19	感覚器系①						
20	感覚器系②						
21	筋系①						
22	筋系②						
23	運動調節機構①						
24	運動調節機構②						

25	呼吸器系（生理）①
26	呼吸器系（生理）②
27	循環器系①
28	循環器系②
29	老化
30	筆記試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	やさしい生理学 改訂第6版 南江堂
参考書	なし
備考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>	
科目名	体表解剖学 I			担当講師	長谷川 聡	
分野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験	
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次	学 期 後期
概 要	<p>事前に学習した解剖学をもとに、学生同士で実際の骨・筋・神経・血管を触診し、関節を動かすことで人体の構造を立体的にとらえ、今後学習する運動学や臨床現場での様々な疾患を持つ患者の評価（動作分析等）・治療に役立てることを目的とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経・血管の走行を理解し、触診ができる。 2. 骨のランドマークを理解し、触診ができる。 3. 筋の起始・停止・神経支配を理解し、触診ができる。 					
回	授 業 計 画 ・ 内 容					
1	触診の意義					
2	骨（肩甲骨）					
3	骨（肩甲骨）					
4	骨（鎖骨・上腕骨・前腕骨）					
5	骨（鎖骨・上腕骨・前腕骨）					
6	三角筋（前部・中部・後部）					
7	大胸筋（鎖骨部・胸肋部）・小胸筋・前鋸筋					
8	棘上筋（前部・後部）・棘下筋（上部・下部）					
9	小円筋・大円筋・広背筋					
10	肩甲下筋・僧帽筋（上部・中部・下部）					
11	菱形筋・肩甲挙筋					
12	上腕二頭筋・上腕筋・烏甲腕筋					
13	上腕三頭筋・腕橈骨筋					
14	円回内筋・方形回内筋					
15	長掌筋・橈骨手根屈筋					
16	尺側手根屈筋・長・短橈骨手根伸筋					
17	尺側手根伸筋・指伸筋					
18	示指伸筋・小指伸筋					
19	長・短母指伸筋・長母指外転筋					
20	浅指屈筋・深指屈筋					
21	長母指屈筋・母指内転筋					
22	終講試験（実技）					
23	終講試験（実技）					
評価方法	実技試験に基づいて学修成果を判定する。					
教科書	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社					
参考書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版 運動療法のための機能解剖学的触診 上肢 改訂第2版					

備考

※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	体表解剖学Ⅱ			担当講師	米田 彰
分野	専門基礎	授業方法	実技	実務経験	理学療法士としての実務経験
単位数	1 単位	時 間	45 時間	学 年	2年次 学 期 前期
概 要	<p>事前に学習した解剖学をもとに、学生同士で実際の骨・筋・神経・血管を触診し、関節を動かすことで人体の構造を立体的にとらえ、今後学習する運動学や臨床現場での様々な疾患を持つ患者の評価（動作分析等）・治療に役立てることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>1. 神経・血管の走行を理解し、触診ができる。 2. 骨のランドマークを理解し、触診ができる。 3. 筋の起始・停止・神経支配を理解し、触診ができる。</p>				
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	オリエンテーション, 骨盤（腸骨稜, 上前・上後腸骨棘）				
2	骨盤（仙腸関節, 坐骨結節）大腿骨（大転子, 大腿骨頭）				
3	膝関節周囲①（膝蓋骨, 大腿骨の内・外側顆, 脛骨の内・外側顆）				
4	膝関節周囲②（大腿骨内・外側上顆, 内転筋結節）				
5	膝関節周囲③（脛骨粗面, 腓骨頭）				
6	膝関節関連（内側側副靭帯, 外側側副靭帯, 膝蓋靭帯）				
7	足関節および足部周辺①（内果, 外果, 距腿関節, 距骨, 足根洞）				
8	足関節および足部周辺②（踵骨, 踵骨隆起, 載距突起, 長母指屈筋腱溝, 長腓骨筋腱溝）				
9	足関節および足部周辺③（距骨下関節, 踵立方関節）（舟状骨, 内側楔状骨, 母趾中足骨）				
10	足関節および足部周辺④（中間・外側楔状骨, 第2～5中足骨, 第5中足骨粗面, 立方骨）				
11	スカルパ三角関連（鼠径靭帯, 大腿動脈, 大腿神経, 大腿外側皮神経）, 下前腸骨棘				
12	股関節に関わる筋①				
13	股関節に関わる筋②				
14	膝関節に関わる筋①				
15	膝関節に関わる筋②				
16	膝関節に関わる筋③				
17	足関節および足部に関わる筋①				
18	足関節および足部に関わる筋②				
19	足関節および足部に関わる筋③				
20	股関節まとめ				
21	膝関節まとめ				
22	足関節および足部まとめ				
23	総まとめ				
評価方法	口述試験と実技試験に基づいて学修成果を判定する。				
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版 運動療法のための機能解剖学的触診 下肢 改訂第2版				
参考書	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社				

備考

※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	解剖学見学実習			担当講師	塚田 幸行、西野 正洋、青山 広道、小川 博之、武藤久司		
分野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	医師，理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	解剖学・運動機能解剖学を基にして人体の構造を系統的に観察し、理解する。骨格系・筋系、血管系・神経系および内臓の形態と位置関係を肉眼的なレベルで立体的に把握することで、人の正常な形態と機能についてや個人差の存在を知る。また、疾患における形態や機能の変化を推測し得る能力を学ぶ。						
到達目標	体表から触知できる骨・筋や浅部に位置する神経・血管・リンパ節などを確実に把握すること、深部に位置する筋や臓器を体表へ投影してその位置関係を確認し把握する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	解剖学見学実習総論、下肢、神経						
2	末梢神経						
3	脳神経（1）						
4	肩関節						
5	肘関節						
6	手関節						
7	下肢						
8	解剖学見学実習オリエンテーション						
9	解剖学見学実習（学外実習）：筋、神経、内臓（1）						
10	解剖学見学実習（学外実習）：筋、神経、内臓（2）						
11	骨学（骨標本スケッチ）（1）						
12	骨学（骨標本スケッチ）（2）						
13	腹腔・その他						
14	神経						
15	期末試験						
評価方法	出席、課題等を加味し総合的に評価する。						
教科書	プロメテウス解剖学 コアアトラス 医学書院						
参考書	人体解剖学（改訂第42版） 南江堂						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	公衆衛生学			担当講師	酒井 聖子, 武藤 久司		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	専門学校講師としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	WHOでは、公衆衛生学を次のように定義している。「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である」特定の集団に対して、上記のことを考える場合に必要な知識、考え方を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学とは何か説明できる。 2. 健康、健康増進とは何か説明できる。 3. 感染症、疾病予防、生活習慣病予防について説明できる。 4. 公衆衛生に対しての国の役割を説明できる。 5. 公衆衛生に対しての市町村の役割を説明できる。 6. 公衆衛生に対して理学療法士が何が出来るか説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	公衆衛生学概論、健康と環境、健康の指標						
2	感染症とその予防、食品保健と栄養						
3	生活環境の保全、医療介護の保障制度						
4	地域保健活動、母子保健						
5	学校保健、生活習慣病						
6	高齢者保健、難病・健康教育						
7	精神保健福祉、産業保健						
8	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	図説 国民衛生の動向2019/2020 厚生労働統計協会						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	病理学			担当講師	日高 輝久		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	専門学校講師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	病理学では、組織・細胞レベルで病気の機序や病気の結果として生じた臓器組織構造上・機能上の変化を明らかにし、病気の本質を学ぶ。また、治療についての基本概念と共に疾病予防のための基本的知識を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気の原因を説明できる。 2. 病気による循環障害を説明できる。 3. 病気による循環障害を説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	病理学の概要、病因論						
2	先天異常①						
3	先天異常②						
4	循環						
5	炎症						
6	感染症①						
7	感染症②						
8	免疫疾患①						
9	免疫疾患②						
10	アレルギー						
11	退行性病変①						
12	退行性病変②						
13	腫瘍①						
14	腫瘍②						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	臨床心理学			担当講師	小幡 知史		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	専門学校講師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	臨床心理学の全体像を広く俯瞰することを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般心理学と臨床心理学の違いを説明できる。 2. 基礎理論について説明できる。 3. 心理アセスメントを説明できる。 4. 様々な心理療法の概要を説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	臨床心理学とは						
2	臨床心理学の歴史と基本理論						
3	アセスメントとデータの収集法						
4	精神分析①						
5	精神分析② 分析心理学						
6	アドラー心理学						
7	中間試験						
8	行動療法						
9	発達障がいと療育①						
10	発達障がいと療育②						
11	クライアント中心療法						
12	認知行動療法①						
13	認知行動療法②						
14	家族療法 コミュニティ心理学						
15	筆記試験						
評価方法	授業参加度、筆記試験等を加味し、総合的に評価する。						
教科書	よくわかる臨床心理学 ミネルヴァ書房						
参考書	臨床心理学序説 ナカニシヤ						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	内科学			担当講師	小泉 勇人		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	医師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	<p>1. リハビリテーション対象疾患を中心に、病態生理と代表的な治療・治癒過程を学ぶ。</p> <p>2. 内科における治療、理学療法対象疾患に対するリスク管理、画像診断も含め学習する。また、臨床実習のみならず理学療法士として現場で評価・治療が円滑に行えることを目的とする。</p>						
到達目標	<p>1. 代表的疾患を学習することによって、リハビリテーションの介入の時期や方法・またその注意点などと関連付けて専門領域に反映させる。</p> <p>2. 呼吸器疾患の病態が理解でき説明ができる。</p> <p>3. 循環器疾患の病態が理解でき説明ができる。</p> <p>4. 代謝系疾患の病態が理解でき説明ができる。</p> <p>5. 各疾患に対して理学療法を行う際のリスク管理が理解でき説明ができる。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	内科学総論、呼吸器系疾患総論						
2	内分泌系疾患総論						
3	循環器系疾患総論						
4	循環器系疾患総論						
5	代謝系疾患総論						
6	リスクマネジメント						
7	生活習慣病 糖尿病 高血圧 高脂血症 狭心症 心筋梗塞						
8	慢性閉塞性肺疾患						
9	血液疾患						
10	癌						
11	感染症						
12	院内感染						
13	自己免疫疾患 AIDS						
14	脳卒中の内科的治療法						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 医学書院						
参考書	新臨床内科学 コンパクト版 医学書院						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	整形外科学			担当講師	松葉 健・平澤 直之		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	医師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	<p>理学療法、作業療法分野において運動器を扱う整形外科患者は多い。この科目では整形外科の基礎疾患・原因・治療・リハビリテーションを学習し、現場で評価・治療が円滑に進められることを目的とする。</p> <p>さらに、整形外科の疾患、各論について学習し理解を深める。また、各疾患の治療法（手術法）を理解しリハビリテーションの重要性を把握し今後の専門分野の学習意欲を高める。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科の基礎科学、診断、治療が理解できる。 2. 上下肢の疾患を理解し説明ができる。 3. 脊椎・脊髄疾患を理解し説明ができる。 4. スポーツ医学について理解し説明ができる。 5. 各疾患に対する治療法（手術法）を理解しリハビリテーションの重要性を説明ができる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	整形外科の基礎科学						
2	整形外科の総論（診断総論）						
3	整形外科の総論（治療総論）						
4	整形外科疾患総論（感染症、骨腫瘍等）						
5	整形外科疾患総論（リウマチ、慢性疾患等）						
6	脊椎疾患						
7	上肢疾患（肩、肘、手）						
8	股関節疾患①						
9	股関節疾患②						
10	膝関節・足関節疾患						
11	スポーツ外傷 その他						
12	外傷学総論						
13	骨折・脱臼各論（含む末梢神経損傷）						
14	骨折・脱臼各論（含む脊椎・脊髄損傷）						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	標準整形外科学 医学書院						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	精神医学			担当講師	大谷 秀幸, 武藤 久司		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	医師としての実務経験, 理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	精神医学では、系統講義（総論・各論）を中心に代表的な精神疾患についての原因・病態・診断・治療について学習する。また、患者の精神の問題を多面的にとらえていけるよう、精神医学の基礎に基づいた患者の行動観察や心理面の把握、患者と治療者との関係の考え方を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学とは何か説明できる。 2. 精神疾患について知識を得る。 3. 患者の行動観察ができるようになる。 4. 患者と治療者との関係の考える。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	心身症・神経症						
2	ストレス関連障害・睡眠・摂食						
3	脳の急性・慢性障害						
4	アルコール・薬物関連障害						
5	児童・青年期精神医学						
6	性格のかたより						
7	うつ病、統合失調症						
8	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価をする						
教科書	精神医学ハンドブック 日本評論社						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	神経内科学			担当講師	草野修輔先生、他		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	医師としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	リハビリテーションにおける脳・脊髄神経系、末梢神経、筋の機能とそれらに関する神経疾患の病態と診断、治療についての知識を学習する。また、個々の障害に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療への理解を深めることを目標にしている。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各神経症候について説明できる。 2. 神経学的診断法を説明できる。 3. 代表的な神経疾患について説明ができる。 4. 神経疾患における合併症について説明できる。 5. 神経疾患を有する方へのケアについて説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	神経系の構造と機能						
2	脳神経、脊髄神経						
3	髄膜炎、てんかん、頭痛						
4	運動神経、感覚神経						
5	脳画像検査						
6	運動ニューロン疾患						
7	認知症						
8	脳腫瘍、脊髄疾患、重症筋無力症						
9	パーキンソン病						
10	免疫性神経疾患						
11	脳卒中						
12	外傷性疾患（頭部外傷等）						
13	末梢神経疾患、筋疾患						
14	水頭症、頭蓋内圧亢進症等						
15	高次脳機能障害・失語症等						
評価方法	出席、レポート、筆記試験等を加味し総合的に評価する。						
教科書							
参考書							
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	小児科学			担当講師	宮崎 泰		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	正常運動発達の理解を基に、小児理学療法に関連する小児骨折、二分脊椎、筋ジストロフィー、脳性麻痺、重症心身障害児者等の理学療法の基本を学習する。						
到達目標	1. この授業で学習する小児疾患の典型的な症状を理解する。 2. この授業で学習する小児疾患に必要な理学療法について理解する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション（授業の進め方、参考書、成績評価、その他）						
2	小児期の身体的発達の特徴、栄養と摂食						
3	正常運動発達（粗大運動発達、座位の発達、上肢機能の発達）、運動発達評価						
4	発達障害（定義上）と小児中枢神経系疾患（運動障害を中心に）						
5	脳性まひの基礎知識						
6	脳性まひの病型別発達（痙直型四肢まひ、痙直型両まひ、痙直型片まひ、アテトーゼ型）①						
7	脳性まひの病型別発達（痙直型四肢まひ、痙直型両まひ、痙直型片まひ、アテトーゼ型）②						
8	小児の循環器疾患①（胎児期の血液循環、出生後の血液循環）						
9	小児の循環器疾患②（小児の循環器疾患の主な症状）						
10	小児の呼吸器疾患①（小児の呼吸器疾患の主な症状）						
11	小児の呼吸器疾患②（小児の胸部理学療法（姿勢と呼吸、重症心身障害児（者）を中心に））						
12	小児の感染症①（小児の感染症の主な症状（発熱・発疹・下痢等））						
13	小児の感染症②（細菌性、ウイルス性）、学校感染症						
14	小児の整形外科疾患①（骨折・切断・骨形成不全・他）						
15	小児の整形外科疾患②（下肢のROM-Ex、装具）、その他						
評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする						
教科書	その都度、資料を配付する						
参考書	生涯人間発達 三輪書店 子どもの理学療法 神陵文庫						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	老年医学			担当講師	浅川 育世		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	<p>老化に伴う機能・心理の変化と疾病の関係、高齢者に多い疾患の病態と治療、高齢者医療で重要な機能評価法と退院支援の実際、高齢者をめぐる社会的問題などを総合的に学習する。</p>						
到達目標	<p>1. 老化について説明できる。 2. 高齢者に多い疾患について説明できる。 3. 高齢者に対するケアについて説明できる。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	老化とは						
2	高齢者への接し方						
3	加齢に伴う変化：生理機能						
4	加齢に伴う変化：運動機能						
5	廃用症候群・誤用症候群・過用症候群						
6	認知症とは						
7	高齢者の脳血管障害						
8	高次機能障害						
9	高齢者に多い運動器疾患①						
10	高齢者に多い運動器疾患②						
11	高齢者の循環器疾患						
12	高齢者の呼吸器疾患						
13	生活習慣病のリハビリテーション						
14	嚥下障害						
15	課題発表						
評価方法	出席、レポート、筆記試験等を加味し総合的に評価する。						
教科書	なし						
参考書	老人のリハビリテーション第7版 医学書院 老年医学テキスト第3版 メジカルビュー コメディカルのための専門基礎分野テキスト 老年医学第2版 中外医学社						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	リハビリテーション概論			担当講師	武藤 久司
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次 学 期 前期
概 要	リハビリテーションの基礎知識を学ぶ。また、日本の医療行政について概略を把握する。				
到達目標	リハビリテーションを構成している内容を理解する。 ①リハビリテーションの定義について説明ができる ②障害の分類について説明できる ③将来的な日本の医療を説明することが出来る ④日本の医療の特徴を分野ごとに説明できる				
回	授 業 計 画 ・ 内 容				
1	ガイダンス、グループワークの方法				
2	リハビリテーションの概念・理念・定義				
3	健康と障害の概念と分類				
4	障害の心理的・社会的視点				
5	リハビリテーション過程				
6	リハビリテーションの諸段階				
7	医療とリハビリテーション専門職種と役割				
8	チームアプローチ				
9	ADL、QOLの概念と評価法				
10	医療・リハビリテーション医療－医療機関で行うリハビリテーションと義肢・装具－				
11	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア				
12	高齢者・健康対策と少子化対策				
13	医療・福祉制度				
14	医療法・福祉関係法規				
15	筆記試験				
評価方法	提出物、出席点、期末テストを勘案し総合的に判定する。				
教科書	医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論				
参考書					
備 考					

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	保健医療福祉概論			担当講師	小手 翔太・渋川 悦子 等		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験、看護師としての実務経験 等		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	地域包括ケアシステム、多職種連携、就労支援、自立支援について、オムニバス形式で学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムについて説明できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける理学療法について説明できる。 3. 多職種連携、チーム医療、自立支援について説明できる。 4. 多職種連携における理学療法士および、他職種の役割について説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション、地域包括ケアシステム（1）概論（理念、背景、制度など）						
2	地域包括ケアシステム（2）理学療法士に求められる役割						
3	多職種連携（1）多職種連携、チーム医療の基礎①						
4	多職種連携（2）多職種連携における理学療法士の役割及び自立支援						
5	多職種連携（3）作業療法士とは？						
6	多職種連携（3）作業療法士と理学療法士の連携						
7	多職種連携（4）言語聴覚士とは？、言語聴覚士と理学療法士の連携						
8	多職種連携（5）看護師とは？、看護師と理学療法士の連携						
9	多職種連携（6）介護福祉士とは？、介護福祉士と理学療法士の連携						
10	多職種連携（7）介護支援専門員とは？、介護支援専門員と理学療法士の連携						
11	多職種連携（8）メディカルソーシャルワーカーとは？、メディカルソーシャルワーカーと理学療法士の連携						
12	多職種連携（9）管理栄養士とは？、管理栄養士と理学療法士の連携						
13	多職種連携（10）保健師とは？、保健師と理学療法士の連携						
14	就労支援（1）職業の意味と就労支援に関する理論						
15	就労支援（2）障害者と職業（障害者の就労、就労支援技術）						
評価方法	授業参加度、筆記試験（教科外）等を加味し総合的に評価する						
教科書	配付資料						
参考書	なし						
備 考							